横浜市立今宿小学校　　令和4年度　学校評価報告書

重点取組分野	令和　4　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	資質・能力育成のため①ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸと思考ｽｷﾙを活用して授業改善②カリマネ計画作成　③一人ひとりの学力向上のため少人数指導や教科担当制など指導方法工夫　④主体的に学ぶ姿育成のため朝学習、朝読書や家庭学習　⑤学びの必然性と学びを活かすため体験的学習	今年度から本校1～6年生の平均値と全国6年生の平均値との比較をしながら、これから向かう方向を修正していこうと思います。 学習意欲的な項目についてはいずれも上回っています。一方、学力テストの点数や家庭学習に取り組む時間は全国に比べて下回っています。今年度、思考ツールを取り入れたり、講師を招いた授業研究会を実施したりして授業改善に取り組みましたが、引き続き授業の質を上げる必要を感じました。また、全国との家庭学習時間⇔学力状況調査結果の関係を見ると、本校の家庭での学習習慣をつけていく必要を感じます。「家庭学習の手引き」等を参考にお声掛けいただければと思います。	B
豊かな心	①多面的多角的な見方育成のため「考え、議論する道徳の時間」づくり　②自己肯定感、他者受容を高めるため社会的ｽｷﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（全学年）とコーチング（6学年）　③確かな人権感覚・意識を育成するため人権学習ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ　④自己有用感を高めるため異学年活動　⑤豊かな心育成のため音楽活動・芸術鑑賞・読書活動	全国に比べて道徳の授業は充実していると思われます。 今年度、グループワークを積極的に取り入れた成果として他者とのかかわりは良好な傾向でした。一方で自分自身に対する評価が低いです。自分のよさに目を向けるような振り返りを取り入れることや学校、家庭双方で、一人ひとりのよさに目を向けて声掛けしていくこと、認めていくことが必要だと思われます。	B
健やかな体	①自ら運動に親しむ態度育成のため体育授業・体育行事・一校一実践　②自ら健康に過ごそうとする態度育成のため健康教育・食育・薬物防止教育・放射線教育	運動、食事については、よい傾向であると思います。 体育の時間に精一杯取り組んだり、長縄跳びに全校で取り組んだりしていることもありますが、休み時間に外に出て遊ぶ児童が多いことが数値に表れていると思います。 食育については、栄養職員が各クラスを回って指導したり、給食を中心とした学級指導の成果が表れていると思います。 一方で、寝る時刻が定まっていない児童が全国に比べて多いことやタブレットを見る時間が圧倒的に増えていることが気になりました。学校と家庭で連携してタブレット使用の約束を指導する必要を感じます。また、これだけタブレットを見る時間が増えていることから、学校において情報モラル教育を充実させる必要を感じました。	B
キャリア教育	①自己肯定感高めるために自分づくりパスポート活用　②集団の課題を主体的に解決する力育成のため実行委員活動、クラブ・委員会、児童会活動、卒業に向けた活動、児童生徒交流	キャリア教育に必要な資質は育ってきていると感じます。係やクラブ・委員会活動において、あるいは、生活科や総合的な学習の時間、様々な学習において、思いや願いを大切にした活動をしてきたことから、こうした気持ちになっているのだと思います。これからも「挑戦」「やり遂げる」体験をたくさん設定していきたいと思います。 コロナ禍の影響で、地域と連携した課題解決学習が十分にできなかったことで（2）の結果がやや低くなっていると感じました。まちに出かけて課題を発見し、協働的に解決する学習を展開していきたいと思います。それが、「将来の夢」や「人の役に立つ人間になりたい」という思いをさらに高めていくと思われます。	B
国際教育・ESD	①外国語（英語）に親しむため外国語活動、外国語科②多様性を認める心育成のためIUIによる授業や様々な学習を通して外国文化を学習　③外国文化理解を深めるため日本文化を学習　④課題に気付き解決しようとする力育成のためESD学習ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ教育、情報教育（ｽｷﾙ,ﾓﾗﾙ,ｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ）	全国に比べて、ICTを積極的に活用していることが分かりました。また、多くの子どもたちが「ICTが学習の役に立っている」と思っていることが分かりました。このよさを生かして、効果的、効率的に学習に取り組めるよう工夫していきたいと思います。 「英語で進んでコミュニケーションを図りたいと思いますか」については、これまでも工夫してきていましたが、更なる工夫が必要かもしれないと感じました。 世界に目を向けて、身近な課題を他人事としないで解決していこうとするように学習を展開していきたいと思います。	B
児童理解・指導/特別支援教育	①問題行動未然防止のため統一した児童指導、診断やYPｱｾｽﾒﾝﾄを活用した計画・指導　②適切な特別支援教育のため関係機関や家庭と連携　③一人ひとりにあった指導をするため国際教室・特別支援教室実施、支援員活用、登校支援アプローチプラン作成　④インクルーシブ教育推進のため副学籍交流	「学校に行くのは楽しい」と答える児童が9割以上いることは嬉しく思います。先生や友だちと様々な活動を通して笑顔があふれる時間を過ごしたことでそうした気持ちになれたのだと思います。しかし、「あまりそう思わない・思わない」児童がいるのが気になりました。また、「先生や学校にいる大人にいつでも相談できる・必要があれば相談できる」の割合が8割台というのも気になりました。一人ひとりに目を配り、温かい学級づくりに努め、どちらも100%を目指していきたいと思います。	A
いじめへの対応	①児童の状況把握やいじめの早期発見のため定期的なアンケートや児童・保護者面談　②組織的に寄り添った対応するためいじめ防止委員会を定期的に開催　③いじめを生まない学校づくりのために横浜こども会議に参加　④健全育成のため関係機関（警察・児相等）と連携、「いじめ防止基本方針」の見直し	97%が「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と答えました。 日々の指導や朝会などで一貫して話してきた成果だと思われます。いじめは楽しく生きようとする気持ちを奪います。自分だけが楽しいのではなくて、みんなが楽しい気持ちになれるように関わることを大切にしていきたいと思います。 今後も授業や日々の生活を通して、「自分とみんなを大切にする子」を育てていきたいと思います。	A

信頼される学校づくり	①安全・快適な環境づくりのため安全管理　②防災防犯意識、安全意識高めるため避難訓練や防災防犯安全活動　③信頼される学校づくりのため学校広報、参観、説明会、学校評価実施、不祥事防止研修　④入学や進学の不安軽減のため幼保小連携、小中連携	個別支援学級教室の改善工事を行いました。月1回の職員による安全点検を実施し危険個所を迅速に改善しました。避難訓練や不審者対応訓練など、児童の安全を守る活動に取り組みました。学校広報、参観、説明会をできる形で実施し、保護者や地域の皆様に学校の様子をお伝えするよう努めました。月1回以上不祥事防止研修に取り組みました。幼保小や小中の連携事業に積極的に参加し、職員間、園児、児童生徒どうしの活動も再開しました。	A
人材育成・組織運営（働き方）	①キャリアステージに応じた人材育成、校務のICT化、マニュアル化、情報共有化促進　②人権研修、教科領域研修、初任研、メンター研の実施　③マネジメントを意識した予算委員会　④チーム学年経営2年目の改善　⑤学校運営の効果的効率的運営により充実とスリム化を促進	各重点取組分野に職員が十分力を注ぎ取り組めるように働きかけてきたことが成果に繋がっていると思われます。コロナ禍でしたが徐々に活動を再開していくことで、退勤時間が遅くなったり、研修時間を十分確保できなくなったりしたこともうかがえました。職員がライフワークバランスを意識しながら、豊かな人生を過ごすことが児童の教育にもよい影響を与えると思います。日程表や放課後の時間の使い方を見直して、時間を作っていきたいと思います。	B
地域連携学校運営協議会	①まちを大切にする心育成のため学校・地域コーディネーターとともに、地域や社会教育と連携して「放課後自習室」「おはやしクラブ」を実施②児童の安全安心な環境づくりのためPTAと連携③学校運営協議会立上げ	学校・地域コーディネーターと学校担当職員との話し合いの時間を作り、次年度以降の地域との連携について見通しをもちました。地域や保護者のご協力を得て放課後自習室、おはやしクラブを実施し、参加人数が徐々に増えてきました。校外委員会、地域の見守りの方々と連携して児童の安全安心な環境づくりを継続しています。今宿中学校ブロック学校運営協議会立ち上げの準備を進めました。	A

ブロック内評価後の気付き	先ずブロック内で話題になったのは「自己肯定感」の項目です。ブロック内共通して70%台と、他の項目に比べてやや低いことが気になりました。YPアセスメント結果で「低自己評価群」に属する児童が中学生になりそのまま自己肯定感が上がらない場合、自分を傷つけたり自死したりするケースがあると報告されています。そういった児童生徒が2割いることから、ブロック共通で人権教育を充実させたり横浜プログラムを実施したりする必要があると話し合いました。また、家庭と連携して自己肯定感を高める声掛けをしていくことも大事になると話し合いました。 動画やゲーム・SNSの時間が大幅に増えていることも話題になりました。生活の変化から幼少のころより動画などを見ている時間が少なからずあるだろうから、単純に時間が増えていることが良い悪いということではなく、どのように使うのか、使うときの約束を決めているのかなどに気を付けてみていく必要があるだろうと話し合いました。
学校関係者評価	グループ学習を取り入れた成果が見られる。学力の向上に反映していない理由を分析するとよい。「対話的」の教師側の捉えに問題があるかもしれない。「一人学びの時間」を大切にするとよい。家庭学習の習慣をつけていくことは中学校、高校と進学する上で必要となる。文科省は「自らの学習を調整（マネジメント）し、粘り強い取組（持続可能な学習）を行おうとする力」を付けることを求めている。そのためには、自分で自分の学習を粘り強くマネジメントできるようにならないといけない。 教職員アンケートのB、Cの項目については、どうしてそうなったのかを分析するとともに、質問の意図を説明する必要があるだろう。 中学校ブロックで、保護者、教職員、地域住民が参加できる自己肯定感を高める取組（研修会など）をしていくとよいだろう。

中期取組目標振り返り	概ね満足のいく結果になったと感じています。本校の取組については、新しい中期学校経営方針の意図を教職員、保護者、地域住民と共有し、私たちがつけたい力は何なのかを明確にして取り組む必要があると思いました。今回の評価結果を受けて、反省を生かしていきたいと思います。 保護者との取組については、家庭学習と自己肯定感を高める取組の充実を図っていきたいと思います。また、端末使用の約束を学校と家庭で共通理解して行っていきたいと思います。 中学校ブロックの取組については、自己肯定感を高める取組として横浜プログラムの研修等を行い、低自己評価群の児童生徒を一人でも減らせるようにしていきたいと思います。